

令和元年度 小林市立須木小学校 自己評価書

4段階評価	4 期待以上	3 ほぼ期待どおり	2 やや期待を下回る	1 改善を要する
-------	--------	-----------	------------	----------

学校経営ビジョン	「夢や希望をもち、笑顔いっぱいの須木っ子の育成」 ～「学びたい」子ども「学ばせたい」学校・家庭・地域の集う学校づくり～
----------	---

項目	本年度の重点目標と目標達成のための手段	実践事項	具体的な取組	自己評価		結果の考察・分析および改善策等	
				取組別	総合		
知育	重点目標： 基礎・基本を身に付け、意欲的に学ぶ児童の育成 手段 1 4つのチェックポイントを生かした授業実践 2 コミュニケーション力の育成 3 読書活動の推進 4 家庭学習の充実	1について ○ 研究公開、支援校訪問を活用した授業研究 ○ タブレット等 ICT 機器を活用した授業実践 ○ すきるタイムで基礎力アップ	○ 主題研究に沿った日常的な授業の取組 ○ 重点支援校訪問での授業力向上 ○ 始業前のスキルタイム（漢字・計算：週2回以上）の実施 ○ ICT 研修会の参加と日常的な活用 ○ 各調査結果の分析と活用	3	3	・4つのチェックポイントを生かした授業実践については、主題研究等で取り組んだ成果が児童の姿にも表れており、特に教師の評価が3.3ポイントと高くなっている。 ・プログラミング教育を含め、ICT 研修会に参加したり校内研修会を実施したりしながら、タブレットの活用法について研修を進めた。今後は、各学年のねらいを踏まえ、発達段階や実態を考慮した全体計画のもとで活用を推進する必要がある。 ・昨年度と比較すると教師、保護者とも0.1～0.2ポイント高くなっている。キャリア教育の視点を踏まえた授業の取組の成果は感じているものの、さらに努力する必要があると考えられる。 ・作品応募については、保護者の評価は高いものの、学年差もあり、全校で取り組むための手立てを検討する必要がある。 ・昨年度の結果とほぼ同じであり、読み聞かせ会については計画通り実施した。図書室利用については、個人差、学年差がある。また、読書活動を進める中で、深く読み取るための手立てについて検討する必要がある。 ・家庭学習については、参観日での学級懇談会や個人面談で啓発を図った。教師、保護者とも昨年度より高い結果になってはいるが、教師の評価は2.6ポイントと他項目と比較するとまだ低い。家庭学習の充実を図る手立てを工夫し、日常的に取り組むように努めなければならない。	
		2について ○ 積極的な作品応募 ○ 話す活動を取り入れた授業展開	○ 宮崎日新聞等への作品応募 ○ キャリア教育の視点を踏まえた授業実践				3
		3について ○ 図書を活用した授業の実施 ○ 読み聞かせの充実（あすなろ会との連携）	○ 読書旬間の実施（年2回） ○ あすなろ会等の読み聞かせの実施 ○ 図書委員会を中心とした読書推進のための取組（多読賞、読書ビンゴ等）				3
		4について ○ 中学校や保護者と連携・協力した学習習慣の確立	○ 家庭学習の手引きの見直しと家庭への啓発（参観日、教育相談等） ○ ノーメディアデーの実施				2
徳育	重点目標： ふるさとを愛し、心豊かにたくましく生きる児童の育成 手段 1 基本的な生活習慣の徹底 2 思いやりのある心の育成 3 社会の問題や出来事に関心をもつ児童の育成 4 須木を愛し夢をもつ児童の育成	1について ○ あいさつ、ボランティア活動の推進	○ 朝の立番、登校班集会等での具体的指導 ○ 家庭への啓発と連携	2	2	・昨年と同様の結果であるが、28年度の水準には至っていない。校内でのあいさつはよくなっている。地域や保護者へのあいさつは、よくあいさつをしているという声も聞かれる一方で、あいさつをしていないという意見も学校に寄せられた。大人が範を示しながら継続的に取り組まなければならない。 ・朝のボランティア活動については、落葉が多い時期に実施するよう変更した。 ・保護者の評価項目において、唯一この項目が2ポイント台の結果となった。教育相談や保護者からの連絡により、いじめの認知件数は増えており、小さなトラブルにも配慮して対応してきた。今後、子どもたちへの対応の際、教師の声のかけ方や言葉の使い方などにも留意し、豊かな心の育成に努める必要がある。 ・教師の評価が2.9ポイントで昨年度より0.6ポイント高くなっている。体験活動や地域人材を活用した学習はこれまで実施しているが、児童の目的意識と主体性を考えた学習活動となるよう工夫した成果であると推測される。 ・新聞に掲載された作品は、その都度学校掲示板に掲示した。それらを読んでいる子どもたちの姿も多くみられた。 ・昨年度より保護者が0.2ポイント下がっており、また、28年度と比較すると教師、保護者とも0.7ポイント低くなっている。「ふるさとを愛する心は育っているが、将来のことを考えて行動するまでには至っていない。」という意見も保護者から寄せられており、学習の目的意識を高めるための指導方法についてさらに研究を深める必要がある。また、教科と総合的な学習の時間の内容の関連性を整理し、キャリア教育の計画に沿った指導の充実を図る必要がある。	
		2について ○ いじめ認知の向上 ○ 人権学習の推進	○ 生徒指導、いじめ防止に関する職員研修の充実 ○ 教育相談、サポート委員会、アンケート調査による未然防止およびいじめの早期発見・早期対応 ○ 「西諸みんなで人権を考える取組」の実践				2
		3について ○ 新聞、地域人材の活用	○ 体験活動や地域の人材を活用した学習の実施 ○ 児童に目的意識をもたせ、主体的に活動する学習活動の実践 ○ 「宮日こども新聞」コーナーの設置				3
		4について ○ キャリア教育、ふるさと教育の推進	○ 地域の行事参加に関する啓発 ○ 米作りに関する関係者への連絡と計画的な実施 ○ 総合・生活科を中心に、各学年の内容に応じて、地域人材を活用したり地域素材を活用したりする学習を実施する。				3
体育	重点目標： 進んで運動し、体を鍛える児童の育成 手段： 1 体育の授業の充実 2 運動に親しむ児童の育成 3 保健・安全指導の徹底と健康で安全な生活の推進	1について ○ 体力向上プランにもとづく運動量の確保、質の向上 ○ タブレットを活用した体育の授業の実施	○ 体力向上プランの作成と授業等での実践 ○ 朝の会での柔軟運動の実施 ○ 体力テストの実施と活用 ○ タブレットによる動画、静止画撮影の授業への活用	2	2	・保護者の評価は下がっており、教師の評価は高くなっている。子どもたちの体力は、体力テストの結果では昨年度と比較して多くの項目で高まっており、そのことが教師の評価に表れていると考えられる。 ・タブレットの活用については、他の教科での活用と関連させて推進していく。 ・全員登校の日数は1月末の状況では昨年度より少ない。通信等で基本的な生活習慣に関する家庭への啓発に取り組んでいるが、今後、たくましさやねばり強さを高めるための取組についても家庭と協力しながら推進しなければならないと考える。 ・ブランコとすべり台を設置したことにより、屋外で遊具を使って遊ぶ子どもたちが増えている。 ・保護者、教師とも昨年度より0.3～0.5ポイント低くなっている。その一方で、「これからも引き続き取り組んでほしい。」という保護者の意見もあり、取り組んではいるがその成果がまだ見えていない状態であると推測する。特にむし歯の治療については個別に繰り返し文書を出したり、指導したりして治療率の向上に努めた。	
		2について ○ 朝、昼休みの外遊びの推奨 ○ 生活習慣の確立による、全員登校日の増加	○ 外遊びを奨励する「キバツ10カード」の配付と取組 ○ 基本的な生活習慣の確立に関する保護者への啓発				3
		3について ○ 立腰、鉛筆の持ち方指導 ○ 基本的な生活習慣の育成 ○ 検診結果を活用した治療率の向上	○ 学習の約束に関する指導の重点化（立腰、鉛筆の持ち方）と継続的指導の実施 ○ 児童会と連携した基本的な生活習慣の確立への取組 ○ 検診結果の配付及び受診が進まない児童、家庭への個別相談の実施				2
食育	重点目標： 望ましい食習慣を身に付けた児童の育成 手段： 1 食に対する指導の充実・食育の推進 2 年2回の弁当の日の実施	1について ○ 給食指導を通し、食事のマナー、箸の持ち方を身に付けさせる ○ e-デーの計画的実施 ○ 残菜0、朝食摂取率100%維持を目指した食育推進 ○ 早寝、早起き、朝ごはんの推奨	○ e-デーを毎月1回設け、食の月目標に基づいて食事のマナーや栄養のバランスなどを担任が指導する。 ○ 月1回のふれあい給食の実施 ○ 食べきり週間の設定と結果の掲示 ○ 給食時計の改善	3	3	・教師の評価が0.4ポイント上がった。月に一度「食べきり週間」を設定するとともに、食事の時間の終わり5分間をおしゃべりをせずに食べるようにしたことで、残菜量がかなり減った。そのことが教師の評価につながっていると考えられる。 ・お弁当の日に対する保護者の反応は様々であるが、子どもたちはいろいろと工夫して弁当作りに取り組んだ。本年度から、弁当の材料を調達する「買い物コース」を付け加えて実施している。「弁当の日」は定着しつつある取組ではあり、今後もその意義を啓発しながら継続して取り組む。	
		2について ○ 年2回の弁当の日の実施	○ 三つのコースを設定し、自分に合った方法でお弁当の日に参加する。 ○ 小中で日程等を合わせてお弁当の日を設定することで、家庭での取組の意識の高揚と実践化を図る。				3

次年度の方向性についての校長所見	新しい学習指導要領が来年度から全面实施となる。主体的・対話的で深い学びを念頭に置き、地域や保護者の方々からのご意見を活かして確かな学力の育成に努めるとともに、遅く豊かな心をもった心身の調和のとれた児童の育成に向け、カリキュラムマネジメントを取り入れ、職員の共通理解と協働実践を基盤として学校の教育目標の具現化を図っていく。
------------------	---

令和元年度 小林市立須木小学校 学校運営協議会評価書

4 段階評価	4 期待以上	3 ほぼ期待どおり	2 やや期待を下回る	1 改善を要する
--------	--------	-----------	------------	----------

学校経営ビジョン	「夢や希望をもち、笑顔いっぱいの須木っ子の育成」 ～「学びたい」子ども「学ばせたい」学校・家庭・地域の集う学校づくり～
----------	---

項目	本年度の重点目標と目標達成のための手段	結果の考察・分析および改善策等	自己評価	委員評価	学校運営協議会委員のコメント
知育	重点目標: 基礎・基本を身に付け、意欲的に学ぶ児童の育成 手段 1 4つのチェックポイントを生かした授業実践 2 コミュニケーション力の育成 3 読書活動の推進 4 家庭学習の充実	・4つのチェックポイントを生かした授業実践については、主題研究等で取り組んだ成果が児童の姿にも表れており、特に教師の評価が3.3ポイントと高くなっている。 ・プログラミング教育を含め、ICT研修会に参加したり実施したりしながら、タブレットの活用法について研修を進めた。今後は、各学年のねらいを踏まえ、発達段階や実態を考慮した全体計画のもとで活用を推進する必要がある。 ・昨年度と比較すると教師、保護者とも0.1~0.2ポイント高くなっている。キャリア教育の視点を踏まえた授業の取組の成果は感じているものの、さらに努力する必要があると考えられる。 ・作品応募については、保護者の評価は高いものの、学年差もあり、全校で取り組むための手立てを検討する必要がある。 ・昨年度の結果とほぼ同じであり、読み聞かせ会については計画通り実施した。図書室利用については、個人差、学年差がある。また、読書活動を進める中で、深く読み取るための手立てについて検討する必要がある。 ・家庭学習については、参観日での学級懇談会や個人面談で啓発を図った。教師、保護者とも昨年度より高い結果にはいるが、教師の評価は2.6ポイントと他項目と比較するとまだ低い。家庭学習の充実を図る手立てを工夫し、日常的に取り組むように努めなければならない。	3	3	・学校行事に参加し、子ども達の様子を見た中で、先生方の教える努力の成果を見た。厳しく、優しく、楽しく、そして褒めることで、先生と子どもの信頼関係が生まれ、子ども達はやる気を出し、成長する。児童全てにそれが見えた。 ・先生が笑顔で授業をしている姿が見られ、その姿勢が子ども達にも伝わっており、楽しく学ぶ雰囲気できていた。 ・コミュニケーション能力の育成は大切であるが、数値としてはまだまだ低い。今後の重要課題として認識し、解決に向けて努力してほしい。
徳育	重点目標: ふるさとを愛し、心豊かにたくましく生きる児童の育成 手段 1 基本的生活習慣の徹底 2 思いやりのある心の育成 3 社会の問題や出来事に関心をもつ児童の育成 4 須木を愛し夢をもつ児童の育成	・昨年と同様の結果であるが、28年度の水準には至っていない。校内でのあいさつはよくなっている。地域や保護者へのあいさつは、よくあいさつをしているという声も聞かれる一方で、あいさつをしていないという意見も学校に寄せられた。大人が範を示しながら継続的に取り組まなければならない。 ・朝のボランティア活動については、落葉が多い時期に実施するよう変更した。 ・保護者の評価項目において、唯一この項目が2ポイント台の結果となった。教育相談や保護者からの連絡により、いじめの認知件数は増えており、小さなトラブルにも配慮して対応してきた。今後、子どもたちへの対応の際、教師の声のかけ方や言葉の使い方などにも留意し、豊かな心の育成に努める必要がある。 ・教師の評価が2.9ポイントで昨年度より0.6ポイント高くなっている。体験活動や地域人材を活用した学習はこれまでも実施しているが、児童の目的意識と主体性を考えた学習活動となるよう工夫した成果であると推測される。 ・新聞に掲載された作品は、その都度学校掲示板に掲示した。それらを読んでいる子どもたちの姿も多くみられた。 ・昨年度より保護者が0.2ポイント下がっており、また、28年度と比較すると教師、保護者とも0.7ポイント低くなっている。「ふるさとを愛する心は育っているが、将来のことを考えて行動するまでには至っていない。」という意見も保護者から寄せられており、学習の目的意識を高めるための指導方法についてさらに研究を深める必要がある。また、教科と総合的な学習の時間の内容の関連性を整理し、キャリア教育の計画に沿った指導の充実を図る必要がある。	2	2	・あいさつは、校内と校外のちがいが子どもによっては見られた。家庭の指導も大切である。 ・いじめと悪ふざけを区別することは難しいが、とにかく思いやりの心をもつことの大切さを教えることが肝要である。 ・故郷を愛する心を育てるには、地域住民との交流や地域を見て回り、地域のよさを教えることが有効であると思う。 ・地域のよさを掘り起こし、それらを教材にした教育課程を編成することで、ふるさとを愛する心が育っていく。そのような学習活動にさらに取り組んでほしい。
体育	重点目標: 進んで運動し、体を鍛える児童の育成 手段: 1 体育の授業の充実 2 運動に親しむ児童の育成 3 保健・安全指導の徹底と健康で安全な生活の推進	・保護者の評価は下がっており、教師の評価は高くなっている。子どもたちの体力は、体力テストの結果では昨年度と比較して多くの項目で高まっており、そのことが教師の評価に表れていると考えられる。 ・タブレットの活用については、他の教科での活用と関連させて推進していく。 ・全員登校の日数は1月末の状況では昨年度より少ない。通信等で基本的な生活習慣に関する家庭への啓発に取り組んでいるが、今後、たくましさやねばり強さを高めるための取組についても家庭と協力しながら推進しなければならないと考える。 ・ブランコとすべり台を設置したことにより、屋外で遊具を使って遊ぶ子どもたちが増えている。 ・保護者、教師とも昨年度より0.3~0.5ポイント低くなっている。その一方で、「これからも引き続き取り組んでほしい。」という保護者の意見もあり、取り組んではいるがその成果がまだ見えていない状態であると推測する。特にむし歯の治療については個別に繰り返し文書を出したり、指導したりして治療率の向上に努めた。	2	2	・体力テストの結果が向上していることは、学校での指導力の成果であると思う。 ・屋外での遊具遊びや運動の推進が体力増強となっており、健康で元気な子どもに育っていることは大変評価できる。家庭でも、スマホゲームやテレビだけではなく、外遊びの習慣化が重要である。 ・なわとび大会は、得意な子どもの発表ではなく、自分ができることの発表の場となっていた。子ども達一人一人を大切にするための工夫が見られた。
食育	重点目標: 望ましい食習慣を身に付けた児童の育成 手段: 1 食に対する指導の充実・食育の推進 2 年2回の弁当の日の実施	・教師の評価が0.4ポイント上がった。月に一度「食べきり週間」を設定するとともに、食事の時間の終わり5分間をおしゃべりをせずに食べるようにしたこと、残菜量がかなり減った。そのことが教師の評価につながっていると考えられる。 ・お弁当の日に対する保護者の反応は様々であるが、子どもたちはいろいろと工夫して弁当作りに取り組んだ。本年度から、弁当の材料を調達する「買い物コース」を付け加えて実施している。「弁当の日」は定着しつつある取組ではあり、今後もその意義を啓発しながら継続して取り組む。	3	3	・肉、魚、海藻、米、野菜など、人間が食べている全ての食物は生きている。その命を食べて生きていることに感謝することを教えることで、食べ物に対する子ども達の考えが変わるのではないだろうか。親が作る愛情弁当の日も大事である。 ・「お弁当の日」の取組内容に新しいコースが加わり、より充実するために改善する学校の姿勢が見られた。

次年度の方向性についての校長所見	新しい学習指導要領が来年度から全面実施となる。主体的・対話的で深い学びを念頭に置き、地域や保護者の方々からのご意見を活かして確かな学力の育成に努めるとともに、逞しく豊かな心をもった心身の調和のとれた児童の育成に向け、カリキュラムマネジメントを取り入れ、職員の共通理解と協働実践を基盤として学校の教育目標の具現化を図っていく。
------------------	--